

黒川能の里王祇会館 - 紹介動画(1.平成28年王祇祭)

早朝です。春日神社に任命された子供たちは、統治者の精神である王祇様の現れである崇拝の対象を運ぶ行列を導きます。彼らのエネルギッシュな詠唱は精神を保護すると信じられており、代表者が神社内の神聖な炎から灯籠を灯して行列をリードします。神は春日神社から、祭りの期間中、当人の家である当屋に運ばれます。

神社の神である王祇様に感謝を捧げる儀式やお祭りでは、子供たちが重要な役割を果たします。1873年までの日本の新年すなわち毎年2月1日と2日に王祇祭は開催されます。王祇祭は平和と来年の収穫の成功を祈願することを中心としています。

[詠唱]

黒川能は、王祇様への供物として、神社のろうそくの揺らめきの中で行われる能の古典舞踊劇です。能の現代5流とも似ていますが、その表現は独特です。黒川能の多様性は日本全国で有名であり、この独特の環境でそのパフォーマンスを体験したいと願う多くの訪問者を魅了しています。

[パフォーマンス]

[白転]

王祇様は、黒川の上座地区に住む渡辺権兵衛さんと一緒に暮らすこととなりました。王祇様は毎年別の住居に住んでいるため、渡辺家にとどまるのは192年ぶりです。

王祇様は黒川地区の公会堂に運ばれます。昼食後、若いボランティアが夕方の黒川能の舞台の準備を始めます。約5歳の男の子がステージを踏み鳴らし、後に神の使者としての役割を果たします。

王祇様を代表する参拝物は、舞台に面して置かれています。この慣習により、王祇様と主催者が一緒に祭りを楽しむことができますと信じられています。

【背景会話】

公演の開始が近づくと、観客は席を埋め始めます。日本各地から公演を見に行ってきた黒川能ファンがたくさんです。これですべての座席が埋まりました。

【背景会話】

キャンドルはパフォーマンス中ずっと点灯したままです。権兵衛さんは、提灯を持った祭りの参加者や王祇様を祀る参拝物とともに舞台上に上がります。

そして、幼い男の子がパフォーマンスを開始します。

【パフォーマンス】

最初のシーンは、広大な土地を踏みしめる鹿の物語です。出演者は鹿の故郷についての詠唱を暗唱します。また、地元の人々が来たるべき収穫を効果的に集めるのに役立つスキルを身につけることを祈っています。5歳くらいの男の子は、大地踏みの儀式で舞台を踏み鳴らし、神々の使者を表しています。

今年は5歳の秋山渡くんが主演。

【パフォーマンス】

観客の目を凝らし、渡くんは完璧なセリフを披露し、美しく踊ります。観客は大きな拍手をします。

【パフォーマンス】

儀式の後、一連の能の公演が行われます。3つのカテゴリーである能、式三番、狂言から選ばれ、喜劇末広やドラマ「はちのき」が含まれます。

【パフォーマンス】

観客にとって、様式化された動きとパフォーマンスの厳粛さは、祭りの重要な部分です。

【パフォーマンス】

二日目の朝、春日神社に舞台を移し、お祭りが続きます。

祭りの参加者は、王祇様を代表する崇拝の対象を神社の小さなからできるだけ早く押し出すために競います。祭りのムードはその厳粛さからダイナミックな興奮へと変化します。

【パフォーマンス】

次に、若者たちは、別のクライマックスの瞬間に、王祇様を象徴する崇拝の対象を神社の梁に向かってできるだけ早く持ち上げます。

各座2人の青年が中央祭壇の前から神社の対応する側に向かってダッシュし、ステージに登ります。

続いて、他の2つの競技が始まります。各座の青年が梁から王祇様を引き下ろし、覆っている布をはがします。この布は、翌年の王祇様の担い手となる青年の首にかけられます。式典の後、それは染められ特別な着物が作られ、翌年の王祇祭で当人が着ることとなります。参加者はまた、梁から巨大な餅をできるだけ早く引き下げるために競います。これらの大会の後、祭りは終了します。

王祇祭は550年もの間、代々受け継がれてきました。

祭りが終わると、黒川の人々は厳しい冬に別れを告げ、春を迎える準備をします。

[ブラックアウト]